



子どものやる気を引き出す話術 “PEP TALK”

校長 益子 聡

◆ 負けないように頑張るのよ ◆ 忘れ物をしちゃうだめよ ◆ ミスをしないようにね
子どもを応援するとき、「～ない。～だめ」といった、否定的な発言をしていることはありませんか？
子どもを前向きに進ませるためには、〈やるぞ！〉という気持ちをかき立てることが大切です。
子どもの不安を自信に変える ― 。そんな話術を紹介します。

◆ 誰でも使える 励ます技術

試合前のロッカールームやグラウンドでチームの監督が選手たちを励ましている ― 。そんな場面をスポーツのドラマや映画で見たことがあるでしょう。この励ましのシーンは〈ペップトーク〉とよばれ、スポーツなどの試合前に行く監督やコーチなどによる激励の話術です。ペップとは英語で〈元気・活気・活力〉という意味。ペップトークとは〈指導的立場の人が、本番前に肯定的な言葉を使って目の前にいる選手や子ども・部下に対して行う、わかりやすい励ましのメッセージやスピーチ〉のことです。

有名な話として、2011年のサッカー女子ワールドカップで、佐々木則夫監督（当時）率いる“なでしこジャパン”が世界一になったときの「思いっきり楽しんでこい」。箱根駅伝で優勝を続けている青山学院大学 原晋監督の魔法の言葉「ハッピー大作戦／サンキュー大作戦」があります。

もともとスポーツの世界で使われてきたペップトークですが、次のようなルールのもと、今は教育や企業現場などでも幅広く使われています。

- ① 「間違えるな」「負けるな」などの後ろ向きなことは言わずに ポジティブな言葉を使う
- ② 相手の心にすっと入っていく 短い言葉を使う
- ③ 普段から使っている 誰が聞いてもわかりやすい言葉を使う
- ④ 相手が一番言ってほしい言葉を使う
- ⑤ 普段から 選手や子どもたちとの信頼関係を 作っておく

◆ ペップトークを 子育てに

北浦和小の子ども達のやる気を引き出すことができるのは、子どもの最大の理解者である親が発するペップトークではないでしょうか。ペップトークが こころぞ！ という場面での声かけとして威力や効果を発揮するのは、日ごろから心と心のコミュニケーションをとり続け、信頼関係が築けているときです。その意味で、我が子と日常の会話が十分にできている北浦和小の保護者の皆様方であれば、子どもの置かれている立場や気持ちを正しく認識し、子どもの魂に届くペップトークができるからです。

子どもに対して、ご家庭で声かけをするとき「～するな」ではなく「～しよう」と、子どもに実際にやってほしいことを具体的な言葉がけにしてみてもいいでしょうか。そうすれば、子ども自身が何をすればよいかをすぐに頭に思い浮かべることができるのです。

- △ 「忘れ物をしないようにね」 → ○ 「明日の持ち物を確かめようね」
- △ 「ミスをしないようにね」 → ○ 「集中してやろうね」
- △ 「心配しないで」 → ○ 「自信をもって大丈夫」

家庭でも、大事な行事や試験、試合等がある朝には、前向きなペップトーク的な言葉で子どもを送り出してあげると、子どもは大いに力を発揮できるかもしれません。また、子どものやる気を引き起こすような、あなただけの〈決めの一言〉を作っておいてみることも面白いと思います。

本校の教師は、日ごろから保護者の気持ちになって子どもたちと心と心のコミュニケーションを図ることに努めています。2学期も、教職員が一人ひとりの子どもがもっている 力 を最大限に引き出すために、子どもとの信頼関係を土台に、温かな雰囲気づくりとペップトーク的な言葉がけの環境を整えていくことに全力を尽くして、毎日の教育活動に当たってまいります。